

発元掘ニュース

第 31 号

平成 3 年 5 月 23 日

発行 財団法人 いわき市教育文化事業団
TEL 0246 (29) 0391

こうど 高戸 A 遺跡の成果

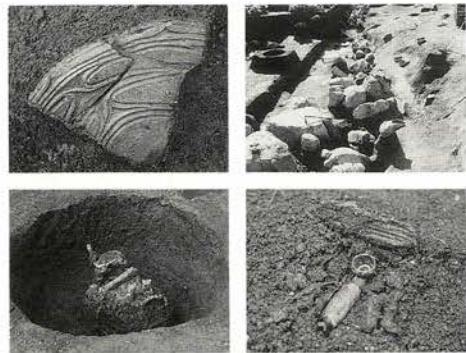
—東北横断自動車道いわき新潟線

(磐越道) 関連発掘調査始まる —

太平洋側のいわき市と日本海側の新潟市を高速道路で結ぶ、通称磐越道の建設にともなう埋蔵文化財の発掘調査が、各地で始まっています。

いわき市内では、路線内に10数カ所の埋蔵文化財の遺跡が確認されています。そのトップを切って平成2年(1990)10月より三和町上永井にある、高戸A遺跡から発掘調査が始まりました。これまでに、高戸A遺跡からは縄文時代の土器や石器、平安時代の自然流路と思われる跡などが見つかっています。また、江戸時代の墓跡も11基見つかりました。墓跡の中からは、骨片と共にキセルや銭貨・漆片・念珠玉などの副葬品も多数見つかっています。これら墓跡の中から見つかった歯については、専門家に鑑定を依頼し、性別や年齢などを調べているところです。

今年度は、差塩地区においても磐越道関連による発掘調査が開始され、その成果に期待が寄せられています。



①発掘調査風景 ②縄文土器 ③流路跡（平安）④墓跡（江戸）⑤キセル

永井地区の遺跡

永井地区を含め三和町には数多くの遺跡があります。現在永井地区で確認されている遺跡数は16にのぼります。高戸A遺跡を始め、大堀A遺跡などいくつかの遺跡で発掘調査が行われています。作B遺跡からは、これまでいわき地方ではあまり見ることのできなかった、弥生時代始まり頃の土器が見つかっています。また、みょうじんだいら明神平遺跡からは約6千年前の縄文土器も見つかりました。

大堀A遺跡の成果 いわき市三和町上永井字大堀

大堀A遺跡は永井中学校の新築工事を原因として平成元年(1989)12月から平成2年(1990)4月まで発掘調査が行われました。標高320mの平らな丘陵部分約4000m²を発掘調査しました。現在永井中学校は立派に建て替えられましたが、その地下には私たちの先祖の太古の歴史が眠っていたのです。

〈旧石器時代〉 今から1万5千年前の石器が見つかりました。こくようせき黒曜石製のナイフ形石器、けつがん頁岩製のサイドスクレーパーなどです。これらは木を削ったり、獣を解体したりする道具として使われたのもです。これらの石器の発見により、三和町には旧石器時代から人が暮らしていたことがわかったのです。



いわき市三和町永井地区周辺の主な遺跡

<縄文時代>

19軒の竪穴住居跡が見つかりました。このうち早期末（約7千年前）が1軒、前期前半（約6千年前）が14軒、不明4軒です。土坑は38基あります。食糧貯蔵用の穴やイノシシなど狩猟用の陷穴^{おとあな}と考えられます。このほか火をたいた跡5箇所、集石遺構3基が見つかっています。注目されるものとして、竪穴住居跡や土坑から出土したクリやドングリ、オニグルミなどの木の実があります。

<弥生時代>

前期から中期にかけて（約2千年前）の土器^{どきかんば}が出土しています。また土器棺墓とよばれるお墓1基も見つかりました。幼くして死んだ子供を壺に入れ丁寧に葬ったものなのでしょう。



縄文時代前期の竪穴住居跡



縄文時代早期の陷穴



弥生時代の土器棺

大堀A遺跡出土の木の実（縄文時代）

4号住居跡	クリ	早期
5号住居跡	オニグルミ、コナラ属	前期
7号住居跡	クリ	前期
4号土坑	クリ	早期
38号土坑	クリ	早期



殿田館全景



殿田館の居館と土壘

差塩地区の遺跡

差塩地区には、現在知られているだけで15の遺跡があります。道添B遺跡などから縄文土器の破片や石鏃が見つかっています。このほかにも、以前から地元の人によって土器が発見されていた場所や、今回改めて確認された遺跡もあり、まだ多くの遺跡が存在する可能性があります。

また、館下地区を囲む3方の山には中世の城跡が確認されています。このうち匠番柵館と殿田館は、伐採によってその姿をみなさんの前に現しています。写真からは、稜線を削ってつくった、曲輪と呼ばれる平場と、外敵の侵入を防ぐために築いた土壘や掘切の存在が確認できると思います。

発掘作業員急募！

磐越道関連の遺跡発掘調査が いわき市三和町差塩地区で行われています。あなたも発掘に参加しませんか。

(電話) 86-2601

連絡先 (財)いわき市教育文化事業団差塩地区現地事務所

とじておきましょう